

静岡県漁業協同組合連合会
1085 静岡市追手町 9-18
16.3.19 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 南伊豆町で密漁防止取締訓練を実施

県密漁防止対策協議会では、近年組織化かつ巧妙化する密漁から水産資源を守ろうと、去る3月15日南伊豆町の手石漁港を基点に密漁船を実際に仕立てて、県内では初めてとなる大掛かりな密漁防止取締訓練を全漁連の支援により行いました。訓練は、下田海上保安部、下田警察署、県水産資源室、南伊豆町漁協、下田市漁協、全漁連、本会等の関係機関から約50人、船舶は巡視船いずなみ、県漁業取締船あまぎ、漁船4隻が参加しました。訓練は、漁協職員等が密漁者に扮し不審船に乗り込み、密漁行為を行い地元漁船がこれを発見し漁協に連絡。漁協は協議の結果対策本部を設置し、海保、警察、及び県水産資源室に連絡。連絡を受けた海保の巡視艇いずなみ、県漁業取締船あまぎが現場に急行し密漁船を近くの手石漁港に追いつめ、駆けつけた署員らが密漁者のアワビや潜水具を確認して、現行犯逮捕する想定で行われました。

訓練終了後、検討会が開催され、海保、警察担当者より密漁等の社会犯罪に対し積極的取り組みを行い厳正な対応をしたいとの力強い言葉がありました。

2. 第46回県漁協女性部大会開催

- JF静岡女性連 -

県漁協女性部連合会(山本節子会長)では、去る3月12日県男女共同参画センターあざれあにおいて、県下漁協女性(婦人)部員約300名参加のもと、第47回県漁協女性部大会を開催しました。

本大会は漁協婦人部連合会が漁協女性部連合会と改名されてから初めての開催となり、はじめに、綱領唱和、水産物消費拡大五力条の唱和の後、山本会長の主催者挨拶に続いて、県農林水産部水産振興室田中素一主幹、本会大崎幸三専務(代読)、県信漁連佐藤吉明会長より夫々祝辞が述べられました。

次に杉山恵子氏(浜松市入野漁協監事)より「しなやかに、美しく生きる」と題した記念講演が行われ、この後、大会宣言が読み上げられ満場一致で採択されました。

続いて、先に開催された第9回全国青年・女性漁業者交流大会(全漁連会長賞)で発表した、「あさりの天敵を味方に」と題した実績活動が浜名漁協女性部斉藤和子部長より発表されました。引続き、恒例の女性部員等によるアトラクションが披露されました。

3. シラス漁海況予察研修会開催

県水産試験場、県しらす船曳網漁業組合主催による平成16年度シラス漁海況予察研修会が、去る3月11、12日の両日、福田町、浜名、静岡、吉田町の4漁協において開催され、席上、県水産試験場より次のとおりシラス漁海況予測が発表されました。

海況(3~6月の予測)：黒潮は、3月までのN型が続き、4月に小蛇行の東進にともないB型となり、5月にはC型・D型を経て再びN型になると思われ、6月に次の小蛇行の東進にともないB型になると予測されます。また、沿岸水温は、3月は『平年並み』~『やや高め』、5月は『平年並み』~『やや低め』、6月は『高め』で経過するとともに、黒潮

の接岸及び小蛇行の東進時に沿岸域に暖水が波及するものの、その後は冷水に覆われ低めになると予測しました。

シラス概況：近年の親マイワシ資源の状況から、マシラスの漁は期待できないことから、対象をカタクチシラス漁に限定し次のとおり予測しました。初漁期(1日1ヵ統当り水揚量200^{kg}以上)は、4月中旬~下旬 春漁(3~6月)の水揚量は、前年(1,938^ト)、平年(2,820^ト)を大きく上回るが、今後の海況によっては予測より低くなる 夏・秋漁(7~10月)の水揚量は平年並み(前年3,761^ト、平年3,793^ト) 年間の総水揚量は、前年6,276^トを上回り、平年(6,968^ト)並み。

4. 最近の石油情勢について

国際石油情勢 原油市況：原油市況は1月、米国の寒波到来や原油・製品の低在庫に加えアルジェリアの石油化学工場での爆発事故で輸出停止があったことなどから上昇し、下旬には34^{ドル}/バーレル前後で推移しました。その後、米国の原油在庫の一時的な増加により下落したものの、2月のOPEC総会において4月からの生産枠削減の決定がなされたことなどにより再度上昇し3月上旬現在、36^{ドル}/バーレル台で推移しています。

石油製品市況：12月下旬には36^{ドル}/バーレル前後まで高騰した石油製品市況は、1月に入りクエート国内の製油所における停電による製品出荷の減少や、原油価格がさらに上昇したことにより、下旬には40^{ドル}/バーレル前後まで急騰しました。その後、原油価格が一時的に下落し製品市況も軟化しましたが、2月のOPCE総会での減産決定等を受けて原油市況と同様に上昇基調に転じ、3月上旬現在、38^{ドル}/バーレル台で推移しています。

国内石油情勢 石油業界動向：石油製品の国内在庫数量は、平成15年12月末速報において、燃料油合計で13,498kl、前年同月比111.5%、A重油は1,326kl、前年同月比111.9%となっています。1月に入り、西日本にも強い寒気が到来し気温の低い日が続いたことや、石油火力発電所向けC重油の需要が再び増加していることなどから、現在、中間留分を中心に需給は逼迫しており、今後の動向を注視する必要があります。

5. ビックリかつおキャンペーン展開

日かつ連では、3月12日から5月9日までアサヒビールとのコラボレーション企画として「ビックリかつおキャンペーン」を全国の量販店約2,500店舗で展開します。

ビックリかつおを使った料理とアサヒビールとの相性のよさを消費者に訴えることで、販売促進の相乗効果をねらいます。この販売方法は昨年も試験的に実施しており、そこでの好評を受けて、今年取り組みとなりました。新たな試みとして、全国から50人の消費者モニターを募集し、流通の実態やビックリかつおについての評価などを把握します。店頭では、パネルやPOPを用いた売場づくりやマネキンによる試食販売、商品シールによるプレゼントの応募などが実施されます。日かつ連では、今年で3回目となるこのキャンペーン期間中に約1千^トのビックリかつおの販売を見込んでいます。

6. 諸会議日程(3月23日(火)~4月5日(月))

- 既報分省略 -

3月23(火)~24(水) 県漁連 = 漁協新職員研修会 (県水産会館)

3月30日(火) 県漁連 = 指導対策委員会 (")

3月31日(水) 県養鰻協会 = 役員・幹事・企画委員合同会議 (ブケ東海静岡)